

大学生を対象とした国産材消費思考アンケート調査

Results of Questionnaire from University Students about the Consumer's Taste for Domestic Timber

—4大学の比較—

-Comparison between Four Universities-

田中 万里子

Tanaka, Mariko

キーワード: アンケート調査, 校舎, 住宅・内装・家具, 木材消費, 木材離れ

要約: 国産材需要増加策を模索する目的で, 将来の木材の消費傾向を調査するため, 大学生を対象とするアンケート調査を行ってきた。今回は, 東京農業大学, 静岡大学, 拓殖大学, 東京経済大学の4大学で実施した475名の回答データについて報告する。アンケートでは, 1) 将来住みたい住宅, 2) 住宅の内装の希望, 3) 家具の希望, 4) 学校の木造校舎についての賛否, 5) 公共の建物についての考え, 6) 木材を使った製品のアイデアについて質問している。文系の学生は農学系の学生に比較すると木材離れが進んでいる傾向が見られた。

Abstract: Searching for the strategy to increase the consumption of domestic timber, a questionnaire was enforced for university students. In this questionnaire, future trend for lumber use was investigated from 4 universities; Tokyo University of Agriculture, Shizuoka University, Takushoku University, and Tokyo Keizai University. In this report, results of questionnaire are analyzed from 475 answers. The questionnaire includes the items about the residence desired to live in the future life, favorite wood interior and furniture, building

of school and public society house in tree, and the idea for the new wood product. Comparing the answer from students of the law and economics departments with that from students of agriculture department, it is revealed that former students have a tendency to dislike timber products than latter.

Keywords: questionnaire, dislike timber products, school house in tree, consumption of domestic timber, residence

1. アンケート調査の目的

日本の森林では間伐等の森林管理作業の推進や、植栽放棄等(堺ら 2003)への対応も急務である。そのためには都市に集中している富を森林地域へ循環させ森林管理作業推進のための費用を捻出する必要がある。そのために補助金やボランティア活動等様々な試みが行われているが、今のところこれといった特効薬は見出されていない。もしも現在より多くの国産材を活用することができれば、川下の富を川上へ流入させることができると考えられる。

一方、日本人の木材離れ、木製品離れは進んでいる。日本の年間木材需要は1973年の1.2億 m^3 を最大にその後それ以下の水準であり、人口1人あたりの年間木材需要も1973年の1.11 m^3 を最大に7～8割程度の値で推移している(田中 2003)。国産材需要を増加させるために各地で地元産の木材利用推進策が講じられている(林野庁 2004)が、現状では明確な木材需要増加には至っていない難問である。木材需要の増加は直接国産材需要につながらないとしても、間接的には関係がある。消費者である国民の思考を調査することによって、そのニーズに合わせた木材生産を行うことで収入を増加させるカギとなり、「資源としての国産材の活路」を見出せるのではないかと考えアンケート調査を開始した。

2004年春から夏にかけて大学生を対象として木材の消費思考を調査するアンケート調査を行い、一部結果についてはすでに報告した(田中 2005a, 田中 2005b)が、今回は4つの大学のアンケート結果について報告する。

2. アンケートの実施方法

アンケート調査の対象者は大学生とした。大学生は約20年の人生経験があり、現在は木材の消費者であり、将来は人生に何度もあるわけではないが需要にもなる。さらに家族の考えも反映されると考えた。

ここでの「木材の消費者」とは、木材を使って建造物を建てたり紙などの製品を使うだけではなく、木材によって作られた建造物を利用することも含まれている。

アンケートは表1に示した4つの大学で実施した。まず東京農業大学地球環境科学部森林総合科学科（以下東京農大と記す）4年生13名を対象に予備調査を行った後、1～3年の各学年で実施した。1年生180名の中で45名が回答し、これは回収率が4分の1程度と低いが、このアンケートに興味のある者の回答になっている。東京農大は全部で323名が回答した。静岡大学では農学部の1～4年の学生を対象にしている。拓殖大学は商学部の1年生、東京経済大学は文系の大学であるが複数の学部の1年生が回答した。総計475名である。

表1. 将来住みたい家についての回答数

回答者	回答者数	木造住宅希望	マンション希望	その他	未定
東京農大1年	45	40 89%	3 7%	2 4%	0 0%
東京農大2年	138	105 76%	16 12%	11 8%	6 4%
東京農大3年	127	100.5 79%	13 10%	9.5 7%	4 3%
東京農大4年	13	11 85%	2 15%	0 0%	0 0%
東京農大計	323	256.5 79%	34 11%	22.5 7%	10 3%
静岡大学	46	33.5 73%	6 13%	6.5 14%	0 0%
拓殖大学1年	50	28 56%	19 38%	3 6%	0 0%
東京経済大学1年	56	31 55%	22 39%	3 5%	0 0%
合計	475	349 73%	81 17%	35 7%	10 2%

各大学を表1のグループで集計を行った。東京農大の学生は森林総合科学科の学生を対象としていることから、森林環境に興味のあるグループとなっており、1年生は木材消費活動に特に興味のある学生の回答である。また4年生は予備調査として行ったが、林業工学研究室の学生が中心となっている。そのため、1年生と4年生の回答は同学科の中でも木材消費に関心の高いグループと考えられる。

木材でできた製品に関するアンケート

日本の森林の健全性を保つためには成長した木を間引く間伐作業が必要です。間伐材（国産材）が利用されれば良いのですが、木材の消費量は減少しています。そこで、消費者側から見た木材消費動向についてアンケート調査を実施することになりました。ご協力をお願いします。なお、回答につきましては、集計し学会発表で使用させていただく予定です。その他の目的では使用しないことをお約束します。

田中万里子（自筆）

回答者について

学年	年生	性別	男・女
出身県（小学生の頃）	都道府県	現在の住まい	都道府県
小学生のころの 住宅について	・ 木造住宅 ・ 団地 ・ マンション ・ その他（ ）	現在の お住まいについて	・ 木造住宅 ・ 団地 ・ マンション ・ その他（ ）

質問事項（複数回答可）

〔住宅〕

1) あなたは将来どのような家に住みたいと思っていますか？

・ 木造住宅 ・ 低層マンション ・ 高層マンション ・ その他（ ）

2) 1) を選択した理由：（ ）

〔住宅の内装〕

3) あなたは自宅の内装として木製のものを好みますか？ ・ YES ・ NO

4) 内装としてどのような物を木製にしたいと思いますか？

・ 床 ・ 壁 ・ 天井 ・ 部屋の扉 ・ 玄関の扉 ・ 柱 ・ その他（ ）

5) 3) を選択した理由：（ ）

〔家具〕

6) あなたがテーブルなどの家具を購入する場合、木製の家具を選択しますか？

・ YES ・ NO

7) 家具はどのような物を木製にしたいと思いますか？

・ テーブル ・ イス ・ 学習机 ・ 書棚 ・ 食器棚 ・ その他（ ）

8) 6) を選択した理由：（ ）

〔学校〕

9) あなたの通っている学校が木造の建物だと良いと思いますか？ ・ YES ・ NO

10) 9) を選択した理由：（ ）

〔公共の建物〕近頃、木造を強調した公共の建築物が建設されるようになりました。

11) 公共の建物としてどのような建築物に木を使うと良いと考えますか？

・ 市役所等 ・ 病院 ・ 公民館 ・ コンサート会場 ・ その他（ ）

12) 11) を選択した理由：（ ）

〔その他〕

13) あなたが木製品であると良いと思うアイデアがありましたら書いてください。

（ ）

ありがとうございました。

図1. アンケート用紙

静岡大学の学生は農学部全体に広がっている。さらに拓殖大学と東京経済大学は文科系学部の学生であり、森林環境への関心は特には持っていない一般の学生の意見と考えられる。

アンケートでは、将来住みたい住宅と理由、住宅の内装の希望と理由、家具の希望と理由、学校の木造校舎についての賛否、公共の建物についての考え、木材を使った製品のアイデアについて質問した(図1)。

3. アンケートの結果

3.1. 将来住みたい住宅

住宅について「あなたは将来どのような家に住みたいと思っていますか? 選択肢: 木造住宅, 低層マンション, 高層マンション, その他」との質問に対する回答の結果は表1, 図2のようになった。全体の73%である349名が木造住宅を選択している。一方, 高層マンションと低層マンションを合わせて81名(17%)がマンションを選択している。

図3は集計グループ別に図示したもので, 木造住宅希望者は大学別では東京農大の学生の平均79%, 静岡大学73%に対し, 拓殖大学56%, 東京経済大学55%と20%程度低い比率であった。東京農大の中でも, 1年生は89%と高いがこれは回収方法が異なり1年生は特に木材に興味のある者の回答が多いためと考えられる。

逆にマンション希望率は東京農大と静岡大学が7~15%であったのに対し, 文系の学生は38, 39%と2倍以上に高く, この割合は木造住宅より低いがかなり接近している。そこで文系の学生のマンション選定理由を見ると, 拓殖大学では「おしゃれ」, 「景色, 見晴らし, 眺めが良さそう」(7名), 「庭がない」と9名が回答し, 東京経済大学では「セキュリティが良い」, 「木造は地震がこわい」, 「低層マンションに今住んでいて居心地がいい」, 「空気がきれい」, 「リッチな気分」, 「ビルやマンションが好き」(3名), 「かつこいい」(2名)など12名が回答している。

次に木造住宅を好む理由について東京農大1年生と東京農大2年生の回答を見てみる。それぞれ38名(木造住宅を選択した45名中), 99名(同105名中)が理由を回答している。これらのコメントをキーワードで分類し, まと

めると表2のようになった。複数のキーワードの出ている回答はそれぞれ重複して扱っている。この設問から木造住宅を好む理由がいろいろな角度から出され、人間と木造住宅との関係が浮き出ている。

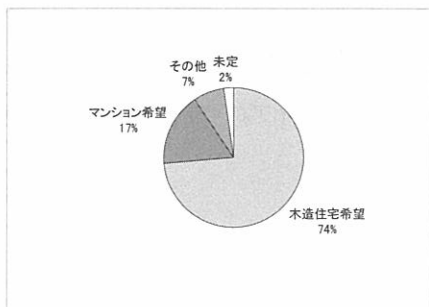


図2. 将来住みたい住宅

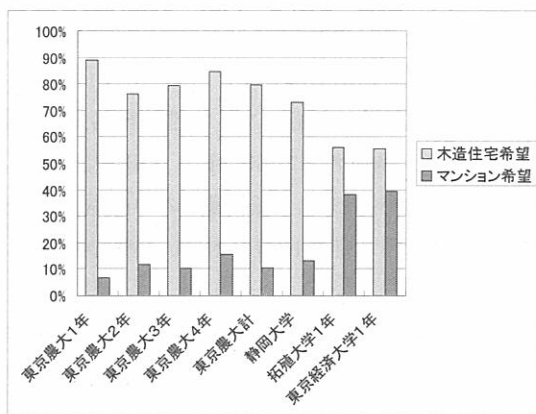


図3. グループ別の住宅希望比率

東京農大2年生の回答理由を具体的に取り上げると次のようになっている。最も多く分類されたものは「気持ち」に関する理由で、42名(35%)があげたが、その中でも「気持ちが落ち着く」ことを挙げたものが18名と17%であった。「あたたかみ」と「ぬくもり」を合わせると9名、「やすらぎ」、「気が休まる」、「心が和む」、「住み心地がいい」、「気持ちよい」などがキーワードになっている。

表2. 木造住宅志向理由の分類と回答数

木造住宅志向理由の分類	東京農大1年 回答数38	東京農大2年 回答数99	拓殖大学1年 回答数21	東京経済大学1年 回答数26
気持ち	17	42	3	2
慣れ	8	21	3	2
一戸建て	5	11	5	4
生活環境としての木の家	6	8	5	6
機能性		8	1	
夢・憧れ		8		
環境問題		7		
現在より異なる志向		6		
健康	4	4		1
木そのもの	3	4	1	1
設計	3	3	4	4
木の家が好き	2	3	3	6
リサイクルのため	1			

「慣れ」とは「今まで住んでいたから」など自分の育った環境に影響されたと考えられる理由を分類した。2番目に多い21名（20%）がこのような回答をしていることから、成長過程での環境の与える影響は大きいことが表れている。

「一戸建て」に住みたいとの理由を11名（10%）が挙げ、これは「一戸建て＝木造住宅」と考えている。「生活環境としての木の家」を考えている回答が8名（8%）あり、「快適でやすらぎのある家が良いから」や「暮らしやすい」などである。「機能性」を考えた意見が8名（8%）であった。

「湿度温度調節」や「空気の流れ」に言及し、さらに「あたたかみ」や「長持ちする」などもある。

「夢や憧れ」は「庭がほしい」など「・・・したい」をまとめたが、8名（8%）が回答していた。「環境問題」とまとめたものは、森林環境に興味ある者としての問題意識が現れている。

次に拓殖大学と東京経済大学の木造住宅希望理由についても集計すると表2のように生活環境としての木の家を志向したり「一戸建て」にあこがれて木の家が好きな者も多く、また今住んでいるなどの「慣れ」と考えられる理由も複数あがっている。また、設計の自由についても望む理由となっている。これらの理由は前述の東京農大の意見と大差はなかった。

3.2. 住宅の内装について

「あなたは自宅の内装として木製のものを好みますか？」と質問したところ、475名中432名（91%）がYESと回答し、NOは42名であった。表3と図4は集計結果であるが、次の2つの傾向を見ることができた。まず、1人以上全員が回答していることから、内装に対しての考えは家についてよりはっきり意識できていると考えられる。2番目に、東京農大はどのグループも木製のものを好む割合が97%以上と高いが、静岡大学は85%と下がり、拓殖大学と東京経済大学はそれぞれ74%、75%と他のグループに比較すると低い回答率であった。

表3. 木製の内装を好むか否か

回答者	回答者数	木製を好む	好まない	未記入		
東京農大1年	45	44	98%	1	2%	0
東京農大2年	138	134	97%	4	3%	0
東京農大3年	127	123	97%	4	3%	0
東京農大4年	13	13	100%	0	0%	0
東京農大計	323	314	97%	9	3%	0
静岡大学	46	39	85%	7	15%	0
拓殖大1年	50	37	74%	12	24%	1
東京経済大学1年	56	42	75%	14	25%	0
合計	475	432	91%	42	9%	1

東京農大2年生の回答ではYESの134名の内114名が理由を記している。これも3.1と同様に分類すると「気持ち」（61名）、「木そのもの」（31名）、「機能性」（12名）、「慣れ」（11名）、「何となく」（7名）,

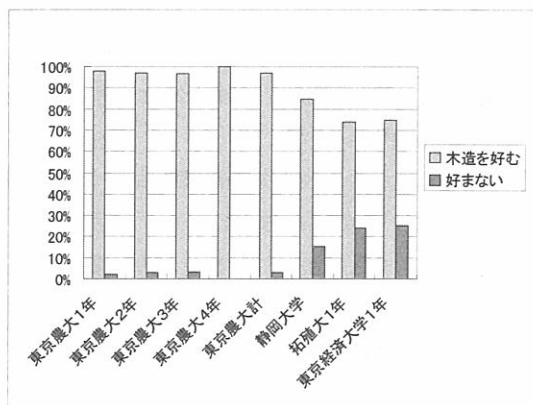


図4. 木製の内装希望比率

「安全性」(2名)、「空間」(1名)、「デザイン」(1名)、その他(6名)となった。

健康面のうち、精神面での理由「気持ち」を挙げた者が61名(54%)あり、特に「落ち着く」のキーワードが入っていた者が32名(28%)であった。他には「あたたかみ」や「暖かい感じがする」が13名(11%)、「安らぐ」(5名)、「温もり」(4名)、「安心する」(2名)を複数の回答者が挙げている。

表4. 文系学生の木の内装を好む理由

分類	分類にカウントした数	コメント
拓殖大学(理由を書いた人数26名/好むと回答した人数37名)		
気持ち	10	おちつく(10名)
空間	9	温もりを感じるから あたたかみがある(5名) 木のぬくもりを感じるから 床が石材とかだったら寒そうだから(2名)
機能性	1	あったかい
慣れ	5	昔ながらの日本の家が好きだから 日本家屋で育ったから。 我が家がそうだから なんとなく 特になし
木そのもの	1	いい木の香りがする
その他	6	古い家の太い木の節のついたはりを見ていいと思った かっこいいから 日本家屋に住みたいから 木造がいいから 木の方がなんだかよさそうだから たまたまとアレルギーがでるから(床を選択)
東京経済大学(29名/42名)		
気持ち	16	おちつける(8名) あたたかみがある(2名) 飽きがこない 和み 自然を感じる・あこがれる(3名) 天然
機能性	3	丈夫そうだから 木製のもは通気性が良いと聞いたことがあるから 便利
木そのもの	5	ぬくもりがあるから(3名) においが好き(4名) 木製の見た目も良いし フローリング派
その他	4	美しいから なんとなく 洋風なものより和風なものの方が好み マンションなどのコンクリートが嫌いだから 日本人だから

(注)重複したコメントは複数にカウントしたため合計数は合わなくなっている

「木そのもの」についての理由を書いた者は31名(27%)あり、「色」, 「匂い」, 「木目の美しさ」, 「さわり心地」, 「質感」, 「趣」, 「ぬく

もり」そして「落ち着き」，「なごみ」などを挙げている．機能性について12名（11%）があげ，「あたたかい」（2名）や「生活しやすい」（2名），「しっかりしている」，「リフォームしやすい」などであった．

11名（10%）が「慣れ」の理由を挙げている．「今の家がそうだから」，「実家がそうだから」各3名，「小さい頃から慣れ親しんでいるから」（2名）他である．「慣れ」と共に「何となく」も7名（6%）あり，両者を合わせると16%の人が自分の経験をそのまま引きずって選択している．

「安全性」は，「怪我しにくい」や「マウスの実験でコンクリートの箱より木の箱の方が長生きした結果から」としている．その他，居住空間としてあたたかみのある安らげる「空間作り」を考えたり，「デザイン」を考えたりしている．

他方，文系の学生も木製の内装を好む理由を同様に挙げている．表4は拓殖大学と東京経済大学の理由を収録したもので，「落ち着く」等の精神面の理由が多く，木そのものが好まれ，機能面も考えている．先に引用した東京農大の理由は木について興味がある者の意見であるが，同様の意見も多くあげられている．

3.3. 木材で作りたい内装の種類

次に「内装としてどのような物を木製にしたいと思いますか？・床・壁・天井・部屋の扉・玄関の扉・柱・その他（ ）」の質問では，選んだ人数の多い順に並べると表5のようになり，①床，②柱，③部屋の扉，④天井，⑤壁，⑥玄関の扉の順であった．

図5はグループ別に示したのものであるが，東京農大4年生の「柱」は，予備調査の段階で「柱」を入れてなかったため，特異な比率となっている．

各大学のグループによって比率の数字の大小はあるが，内装の種類での大小関係の傾向は似ていることがわかる．ただし，拓殖大学と東京経済大学は，天井より壁に木を使いたいとの回答が多少多くなっている．

床は洋間のフローリングを連想している回答者が多いが，中には日本古来の古い民家にある板の間を考えている者もあった．また，木の柱は好まれて

表5. 木製の内装を希望するもの

回答者	回答者数	床	柱	部屋の扉	天井	壁	玄関の扉
東京農大1年	45	35	30	27	23	17	8
東京農大2年	138	31	29	23	21	13	10
東京農大3年	127	100	84	67	59	49	34
東京農大4年	13	9	2*	8	5	3	3
東京農大計	323	175	143	125	108	82	55
静岡大学	46	31	31	15	15	9	9
拓殖大1年	50	24	23	18	5	8	3
東京経済大学1年	56	31	20	15	10	11	9
合計	475	261	217	173	138	110	76

*の東京農大4年生の場合には選択肢に柱を入れていなかった小さい数字になっている

いることもわかる。玄関の扉は風雨にさらされるためか部屋の扉より低い回答であった。

全体に住宅より内装の方が木製を望む比率が高くなっている。

3.4. 家具について

「あなたがテーブルなどの家具を購入する場合、木製の家具を選択しますか？」の質問に対して、希望するYES 370名（78%），NO 91名（19%）であった（表6）。NOの理由は「家具は木以外のものも使ってみたい」、「デザイン重視」、「木の家具は値段が高いから」などで、家具は回答者にとって身近な物であって、機能やデザインを重視し、周囲とのバランスを考え、木にこだわらず値段も含めて個々に選考しようとしていることがわかる。

グループ別に図示した図6を見ると、住宅や内装と同様の傾向が見られた

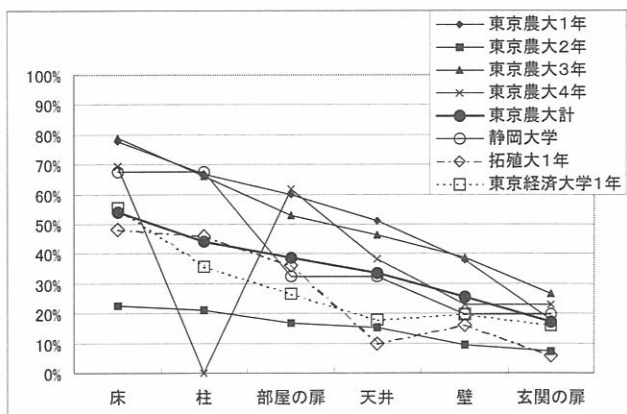


図5. グループ別の木製の内装希望比率

が、東京経済大学と拓殖大学と多少異なり、6%の差があった。

表6. 木製家具を希望するか否か

回答者	人数	木製家具を希望		希望しない		未記入	
東京農大1年	45	41	91%	4	9%	0	0%
東京農大2年	138	117	85%	18	13%	3	2%
東京農大3年	127	104	82%	15	12%	8	6%
東京農大4年	13	11	85%	2	15%	0	0%
東京農大計	323	273	85%	39	12%	11	3%
静岡大学	46	32	70%	14	30%	0	0%
拓殖大1年	50	29	58%	19	38%	2	4%
東京経済大学1年	56	36	64%	19	34%	1	2%
合計	475	370	78%	91	19%	14	3%

東京農大2生のYESと回答した理由を引用すると、117名の内93名が理由を記述している。分類した結果、35名が「気持ち」を考えた理由を記述し、その中で「落ち着く」とのコメントを12名（13%）が挙げ、「あたたかみ」（10名）、「ぬくもり」（5名）と続いている。さらに、「疲れない」、「心が和らぐ」、「気持ちがいい」、「使い心地がいい」、「机は勉強しやすい」が記されている。

「慣れ」と分類できる理由を18名が回答している。「家ではずっと木製なので」（6名）や「なんとなく」も9名が答え、「今まで木製のものを使っていたから」や「今自分の家がそうだから」と約20年間使用していた物を基準に物を考えていることがわかる。

部屋の雰囲気に関わる理由を10名が回答している。これは「気持ち」とも

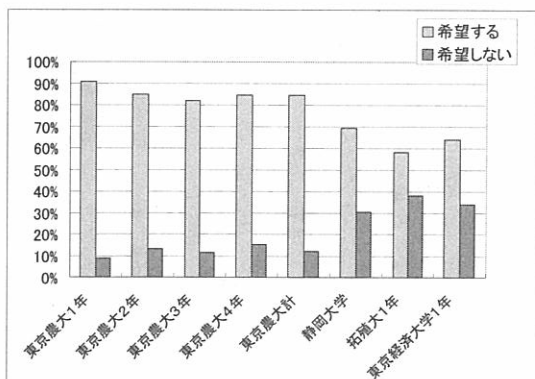


図6. 木製家具の希望比率

関連している。

耐久性に関わることを10名が回答し、「丈夫」、「割れにくい」、「長持ちする」、「傷が目立たない」など。「美しさ」9名で、「色」、「質感」、「木目」、「見た目」、そして「味」を挙げている。「木が好き」8名。「機能性」4名は「使いやすさ」を答えている。「デザイン」が好きな者4名。「感触」に関して、3名が「肌ざわりが良い」、「触った時冷たくない」などと回答している。「安全性」について、「あたりが良いから」と記している。

回答者は「環境問題」に関心があることから、「環境にやさしい」としている。その他、「調和」や「不要になったら燃やせる」や「なるべく木がいいと思う」などであった。

一方、文系学生の希望理由は次のようになっている。拓殖大学では希望すると回答した29名の内19名が理由を書いているが、「落ち着く」などの「気持ち」に関するもの5名、「木が好き」4名、「美しさ」6名、「感触」2名、「家の感じがする」1名、「耐久性」2名であったが、「時と場合による」が示すように物によって異なるとしている。希望しないと回答した中に、学習机は「木製だと集中できる」との意見も述べている。

東京経済大学では、42名が木製家具を希望すると回答しそのうち29名が理由を書いている。前と同様に分類してみると、「気持ち」16名、「木そのもの」に関する理由5名、「丈夫そうなどの機能性」3名、その他「何となく」、「和風」2名、「コンクリートが嫌い」であった。

3.5. 木製にしたい家具

「家具はどのような物を木製にしたいと思いますか？」の設問に対して、回答者は次の順で選択している。テーブル323名（68%）、書棚235名（49%）、イス233名（49%）、学習机209名（44%）、食器棚156名（33%）であった（表7、図7）。

グループ別で図示すると、図7のように文系は総じて低い比率となっているが、拓殖大学は書棚、学習机、食器棚が静岡大学の傾向と似かよっており、グループの傾向は明確ではなかった。

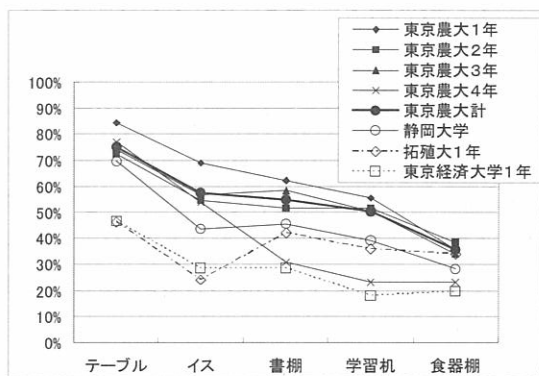


図7. 木製を希望する家具の種類

表7. 家具の中で木製を希望する家具の種類

回答者	人数	テーブル	イス	書棚	学習机	食器棚
東京農大1年	45	38	31	28	25	16
東京農大2年	138	100	75	71	71	53
東京農大3年	127	94	72	74	64	43
東京農大4年	13	10	7	4	3	3
東京農大計	323	242	185	177	163	115
静岡大学	46	32	20	21	18	13
拓殖大1年	50	23	12	21	18	17
東京経済大学1年	56	26	16	16	10	11
合計	475	323	233	235	209	156

3.6. 住宅・内装・家具の比較

ここまで紹介した住宅・内装・家具の木製を好む割合を比較してみる。図8は横軸にグループを縦軸に比率をとり折れ線で図示したものである。この図から次の傾向が見られる。

1. どのグループでも内装の木製の希望が高かった。それに対して、木造住宅と家具は近い割合を示している。
2. 全体でも内装91%に対して家具は78%、住宅73%であった。木製品を使用する観点から内装への利用が最も消費者に勧めやすいと考えられる。
3. 住宅については一戸建てを望む気持ちと安全性を考慮して反対の意見を述べている者も多い。今まで考えたことがないという学生もいる中、一生に一度というハレの買い物ゆえ決められないというように学生にとっては未

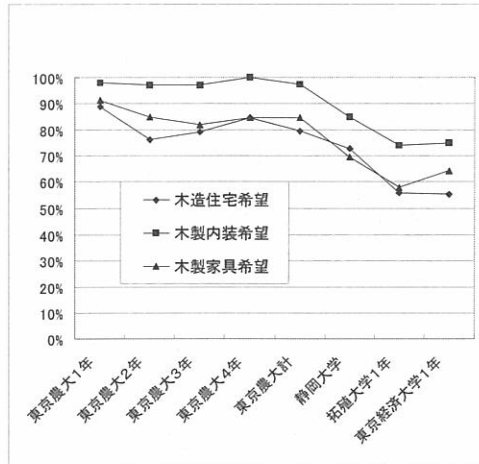


図8. 各グループの木材思考の違い

だ遠い設問であったようだ。住宅は災害や耐久性など様々な強度面の意見も出、中越地震の後にはもっと木造住宅の比率が下がったかもしれない。

4. グループ別では、今まで見てきたように東京農大の学生の意見は学年の差はあるものの、全体に高くなっている。
5. 静岡大学は東京農大と文系の大学生の中間的な回答であった。家具より住宅の木製希望率が多いことが他のグループと違っている点である。
6. すでに見てきたが、拓殖大学と東京経済大学の学生は低い値となっている。

3.7. 学校について

「あなたの通っている学校が木造の建物だと良いと思いますか？」という質問に対して、YESまたはNOで回答を求めたところ、集計結果は表8のようになり、YESが216名（45%）、NOが242名（51%）、未回答17名（4%）とNOが5割を超える回答であった。学校を小学校、中学校、高等学校を対象とした回答もあるが、大学を対象としたものもある。あえて明示せずにおいたが、様々な捉え方をしている。しかし、今回のアンケートでは50%以下という比率が示すように木造校舎離れは明らかと考えられる。

表8. 木造校舎好むか否か

回答者	人数	木造の校舎を好む		好まない		未記入	
農大1年	45	29	64%	15	33%	1	2%
農大2年	138	75	54%	57	41%	6	4%
農大3年	127	66	52%	53	42%	8	6%
農大4年	13	9	69%	3	23%	1	8%
農大計	323	179	55%	128	40%	16	5%
静岡大学	46	16	35%	30	65%	0	0%
拓殖大1年	50	10	20%	40	80%	0	0%
東京経済大学1年	56	11	20%	44	79%	1	2%
合計	475	216	45%	242	51%	17	4%

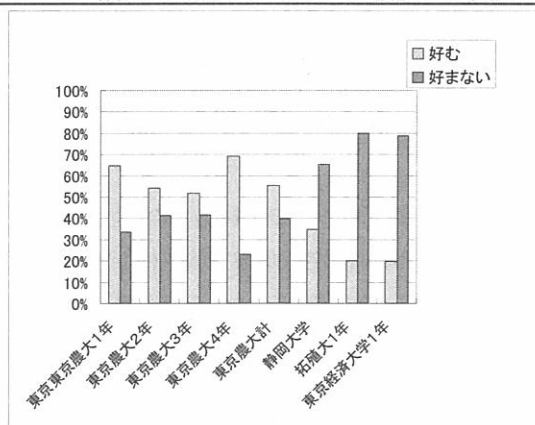


図9. 木造校舎を好むか否か

図9にグループ別の結果を図示したが、4つの大学を比較すると、東京農大の学生は55%と半数以上が木造を希望しているが、静岡大学は35%で、拓殖大学と東京経済大学は共に20%となっている。東京農大は森林総合科学科の学生のみであるが、静岡大学の回答者は農学部であり森林に特化していないことが現れているのかもしれない。また、文系の大学生の意見はより一般国民の意見を反映しているとも考えられる。

東京農大2年生のYES 75名中67名(89%)、NO 57名中53名(93%)が理由を書いている。その理由を分類すると表9のようになった。1つのコメントで複数の分類にまたがる場合は複数回重複してカウントしているため、人数より多くなっている。

東京農大2年の理由から、教育の場としての観点からの意見(「雰囲気」や「教育面」と、子供たちの生活の場としての安全性、地域の避難場所と

しての安全性, さらに地域の象徴としての見栄え, 「そんなものだろう」という自分の経験「慣れ」, そして地域として国産材需要に貢献しようとする意見がうかがわれる。

教育効果を重視すると, 木造が優位であるが, 安全性を重視すると非木造が優位になる。回答者の古い木造校舎での良くない思い出が大きいと見た目で非木造に引かれ, また逆もあり, 自分の経験や印象によって意見が異なってきた。また森林環境に興味があるために木造を推進する意見も出てきている。

表9には文系の学生の理由も分類して表示している。木造を望む理由では「雰囲気」が多く, 望まない理由では「安全性」と「耐久性」が多いことは東京農大2年と同様であった。「見た目」と「慣れ」は望まない理由として多くなっている点は東京農大2年と異なっている。文系の学生は木造校舎の経験が少ない可能性が考えられる。

3.8. 学校以外の公共の建築物について

学校以外の公共の建築物について次のように質問した。「近頃, 木造を強調した公共の建築物が建設されるようになりました。公共の建物としてどのような建築物に木を使うと良いと考えますか? ・市役所等・病院・公民館・コンサート会場・その他()。 」この設問は予備調査の東京農大4年にはなかったため, 表10に示すように回答者数は462名である。

表9. 学校が木造であることを望む理由と望まない理由

分類	東京農大2年		拓殖大学1年		東京経済大学1年	
	望む (YES)	望まない (NO)	望む (YES)	望まない (NO)	望む (YES)	望まない (NO)
雰囲気	27	3	4	2	5	1
教育面	10					
機能	11	6	1	1		1
安全性	6	11	1	8		11
耐久性		6		5		3
木造が好き	5		1		1	
慣れ	15	10		3	1	2
見た目		7	1	6	1	4
清潔感						2
国産材需要の増加	2					
どちらでも						2
その他	6	8		3		
木造は...		2				

学校も含めて5つの公共施設は表10と図10に示したように学校が207名で45%であったのに対し、公民館41%、病院37%、コンサート会場35%、市役所等25%となった。図11はグループ別の集計結果である。回答された理由も合わせて類推すると次のような傾向が見られた。

1. 市役所等ほどのグループでも低く、多くのコンクリート作りの建物に慣れてしまっているようだ。
2. コン서트会場の木造化については、理由の大部分が「音響が良さそう」を回答し、またリラックスできることも大切としている。
3. 病院については賛否両論が出てきた。木造を選んだ回答者の理由には「入院患者のためにリラックスさせた方が病気を治せる」との意見が多く見られた。
4. 公民館は様々な世代が利用し、多くの人々が交流するので癒しのある空間の方が和むとした意見が多かった。

また、文系の回答ではその他として、「トイレ」と「喫茶店」との回答が

表10. 木造を望む公共施設の回答数

回答者	人数	学校	市役所等	病院	公民館	コンサート会場
東京農大1年	45	29	19	17	24	15
東京農大2年	138	75	39	55	58	56
東京農大3年	127	66	38	57	49	54
東京農大計	310	170	96	129	131	125
静岡大学	46	16	5	16	24	15
拓殖大1年	50	10	10	15	14	13
東京経済大学1年	56	11	5	10	21	8
合計	462	207	116	170	190	161

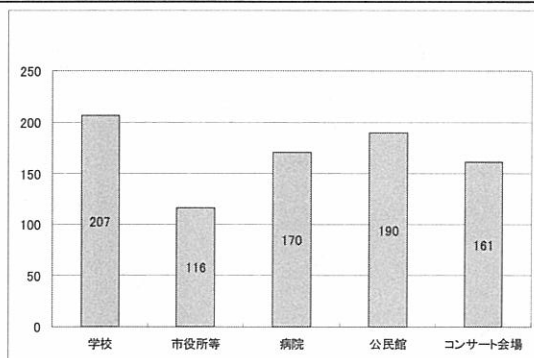


図10. 木造を望む公共施設の回答数

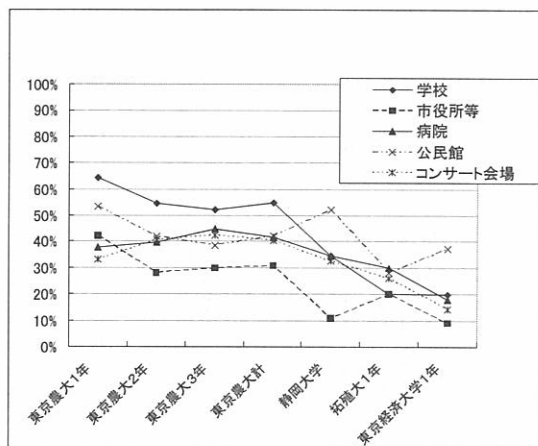


図11. 各グループの木造公共施設回答率

あった。

3.9. その他の木製品のアイデア

「あなたが木製品であると良いと思うアイデアがありましたら書いてください」という自由な質問に対し、全体で121名の回答を得た。回答率25%と少ないがこれはアイデアを出すことが難題だからと考えられる。図12は東京農業大学森林総合科学科、静岡大学、文系大学（拓殖大学と東京経済大学）の3つのグループでのアイデアの回答数を図示したもので多岐に渡っている。

木製品は体に当たっても衝撃が少なく、ストレス社会でもあたたかみを感じて癒されそうという理由から「身の回りの品」、「パソコン」、「文房具」、「電話」、「家電製品」、「家具」類が提案されている。人の触るところに木を使いたいという反面、デザインも良いことが条件になっている。機能のみでなく、デザイン的に若い層にも受け入れられる魅力ある木製品の商品開発をすることで需要を伸ばすことができると考えられる(田中2003c)。

特に文系の学生の意見は商品開発後一般消費者に受け入れられる可能性を含んでいる。他方、森林環境に興味あるある学生は木製品の知識もあり、若

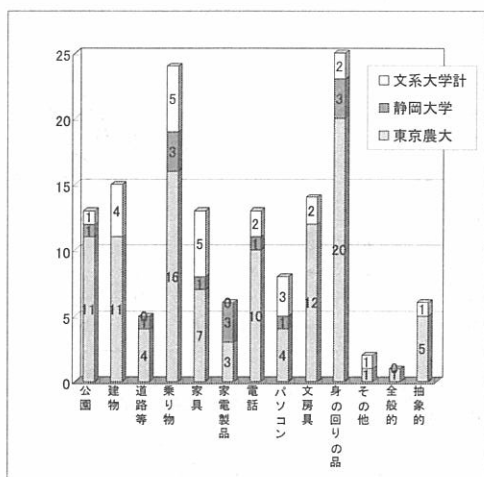


図12. アイディアの回答数

い柔軟な意見として参考にできる。木製品に限らず商品化は難しいことでリスクを伴うが、国産材の需要を伸ばすためには挑戦しなくてはならないだろう。新たな木製品の開発は難しいが身の回りに木目の美しい携帯電話などを置いておきたいとの意見が多く見られた。

4. まとめ

このアンケートを通して次の傾向が見られた。まず、大学生は住環境についてはまだ全く考えたことが無い人が多く、質問されてはじめて意識し回答するということがあった。また、多様性の時代を反映して人により住環境に関する意見が異なっているが、3.6章の傾向から、一般に言われているように、内装への木製品の活用が現在最も消費者に受け入れられやすいと考えられる。それに対し、建築物の構造体としては集合住宅や大きな建築物には鉄筋鉄骨コンクリートなど他の物が適していると消費者に思い込まれている。しかし、木材を張り合わせた集成材などの研究が各地で進められ改良されているが、消費者に伝わっていない現状がある。このことから今後はさらに技術情報を広める必要がある。

家具は屋内で使用されることから、多くの家庭で木製家具が使われており、家具の材料として木材は消費者に認識されている。しかし、木製家具が

高価であるとの認識が根強く、他の材料との競争で不利になっている上、ライフスタイルの変化からデザインが古いとして市場のシェア獲得競争で押しなげられてきている。

結果的に現状では内装でのシェア維持が難しく、家具製造の経営も同様で木材消費が伸び悩んでいると考えられる。古い流通加工を維持するだけでなく、消費者ニーズを掘り起こす努力や日本人のライフスタイルの変化に合わせたデザインの考案、それに加えてコストダウンの努力を行えば、内装と家具のシェア拡大の可能性はあるのではないだろうか。

一方、構造材としての木材は、他の構造材と比較してその弱さが地震被害などで強調されているが、個人の木造住宅希望は現在のところ根強いものがある。長年使用する建築物について維持方法を国民にしっかり伝えるなどの情報を提供し、木材を使う利点をしっかり発信して国民に伝えた上で、市場での競争力を強化する必要があるだろう。アンケートの理由を見ると、的確な考えを持つ者は少なくイメージとして回答している者が多い。「構造材として木材は弱い」とか「長持ちしない」などの先入観を植え付けられていると、それだけで選択肢から脱落する可能性がある。多様化の時代に県産材や国産材の需要量を増やすためには消費者に適切な知識を持ってもらうことが大切である。

さらに、自分の置かれた環境に順応して回答している傾向がすべての質問に見られた。人間の順応性の高さが現れているが、特に成長期での経験の影響は大きく、子供時代の環境の大切さが見られた。この影響は学校などの公共施設にも現れている。

今回の結果では、森林関係の学生（東京農大生）は文系の学生の結果よりかなり木材利用に好意的であり、静岡大学の学生は中間的な結果となった。森林に興味ある人間の間での議論は、東京農大の結果に近いところで行っていることになり、世間一般の意見や感覚は今回の文系学生の意見に近いところにあると考えられる。したがって、木材離れはもはや放って置けないところに来ているのではないだろうか。

謝辞

最後に、アンケート調査にご協力いただきました静岡大学の今永正明先生、東京農大の森林総合科学科の豊川先生、箕輪先生、佐藤先生、大林先生、そして、アンケートに回答していただいた4つの大学の学生諸君に感謝の意を表する。

引用文献

林野庁. 2004. 森林・林業白書, 230p.

堺正紘編著. 2003. 森林資源管理の社会化, 九州大学出版会, 359p.

田中万里子. 2003. 日本の木材需要動向の分析と木材流通概念拡大の必要性,
*森林資源管理と数理モデル*2:97-109

田中万里子. 2005. 国産材活用に関する大学生を対象としたアンケート調査,
*日本林学会関東支論*56:11-14

田中万里子. 2005. 国産材活用のための木材消費思考に関するアンケート調査
(1) -東京農業大学2年生を対象とした調査-, *森林利用学会誌*
19(4):335-338

田中万里子. 2005. 木材消費志向の変化—国産材活用のためのアンケート調査
から—, *森林技術*761:2-6